

エジプト 生食用ブドウ部門は健闘しているが薄氷の上

[FreshPlaza](#) 2024年8月9日

エジプトの生食用ブドウの出荷シーズンは、生産と販売の込み入った状況の中で続いており、成功の度合いは様々である。出荷量は減少しているが、出荷期間は長くなっている。需要は増加しているが、価格はそれに追いついていない。地政学的な状況は、物流上の大きな障害を引き起こしているが、競合するインドにとっては一層深刻である。総じて言えば、エジプトの生食用ブドウ部門はよく健闘しているが、薄氷の上を滑っているようなものだ。

生食用ブドウ等の作物を栽培するエジプト生産機構の共同創設者であるルアイ・エルコート氏が、今年の出荷シーズンについて語った。生産者である同氏は、今シーズンは生産者か輸出業者かによって異なる経験をしているとして、「今年は需要が増加し、事業が安定しているため、輸出業者にとっては昨年と同様に良い年であると考えられている。一方、生産者にとっては、ほとんどすべての品種で昨年よりも生産量が少ない。非常に暖かい冬が、果房の数と重さに影響を与えた。出荷量は昨年に比べて最大25%少ない」と説明した。(以下「」は同氏の発言)

「生産者としては、今年は収穫の開始が早まった(5月の種無し白ブドウと無種し赤ブドウ)ことにより、もし収穫量が少ないとしても出荷シーズンを延ばすことができた。したがって、生産者の収入は昨年よりも多い。一方、コストも昨年に比べて30~40%多い。不運なことに、包装資材を高値で購入した直後にエジプトポンドの切り下げが起こり、収益が減少した。全体として、今年は取引先から寄せられた苦情が非常に少なかったことから明らかのように、大きな品質問題は発生しなかった。中でも、早生の白ブドウの収量と品質は赤ブドウよりも優れていた。シーズンの中盤から終盤にかけて、ほとんどの地域で出荷量が増加し、需要は昨年よりも堅調であった。」

輸出業者は、有利な状況の組み合わせによって利益を得たため、収支は良好である。「出荷シーズンが早く始まったことが、一貫した品物の流れと安定した価格を維持するのに役立った。エジプト産のブドウは、市場が品薄の時期に入荷した。価格は昨年とほぼ同じだが、輸出業者は通貨切り下げの恩恵を受けた。また、紅海危機によりインド産のブドウがヨーロッパに届かなくなったため、競争が穏やかであったことにも助けられた。」

市場に関しては、「今シーズンは、白ブドウとミックス(色違いのブドウのセット)に対するヨーロッパの需要がより顕著なことが特徴である。エジプトの出荷シーズンの前の品不足のため、昨シーズンよりも輸出期間が拡大し、出荷シーズンの2週目である第22週(5月末)から需要が高くなっている。ヨーロッパ、英国、アフリカは非常にダイナミックだが、極東市場はガザの戦争と紅海の危機により昨年よりも減速している。新しい品種ほどすべての市場で需要が多く、生産者と輸出業者はこれらの品種でより高い収益を上げている。」

脆弱なバランスの上で、生食用ブドウ部門は健闘しているが、困難が無いわけではない。この地域の緊張は近隣諸国に影を落とし、物流の混乱は深刻である。「これはすべての生鮮果実・野菜に当てはまる。エジプトは輸出を増やしたいと考えているが、不安定な物流ルートとコストの上昇に直面している。例えば、生食用ブドウの出荷シーズンの開始時には、港へのトラック輸送に大きな問題があることが発覚した。何百台ものトラックが援助物資を積んでガザに送られ、長い間国境で立ち往生した。」

「我々は、新旧の市場の特性やニーズをより正確に把握する必要がある。ヨーロッパでのダンピングを避けるために、より早く市場に到着できる高速船など、より多くの物流の選択肢が必要である(コンテナがエジプトからロッテルダム(オランダ)に到着するまでに通常12~15日かかる)。」

執筆者: ユーネス・ベンサイド

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)